

平成23年第3回八千代町議会定例会会議録（第2号）

平成23年9月9日（金曜日）午前9時02分開議

本日の出席議員

議長（5番）	生井 和巳君	副議長（3番）	上野 政男君
1番	中山 亨君	2番	大久保弘子君
4番	中山 勝三君	6番	相沢 政信君
7番	大久保 武君	8番	水垣 正弘君
9番	矢中 召二君	10番	小島 由久君
11番	稲葉 常美君	13番	宮本 直志君
14番	湯本 直君		

本日の欠席議員

12番 小竹 徳市君

---

説明のため出席をしたる者

町 長	大久保 司君	副 町 長	生井 光男君
教 育 長	高橋 昇君	会 計 管 理 者	渡辺 常雄君
秘 書 課 長	風見 好信君	総 務 課 長	飯島 英男君
企画財政課長	斉藤 実君	税 務 課 長	青木 良夫君
町 民 課 長	小竹 貞男君	福祉保健課長	生井 勝巳君
生活環境課長	岡田 昭夫君	産業振興課長	浜名 進君
都市建設課長	上野 真一君	上下水道課長	幸田 裕之君
農業委員会 事務局 長	水垣 進君	学校教育課長	水書 正義君
教育次長兼 公民館長兼 生涯学習課長	上野 林作君	給食センター 所 長	片平 博君
総務課 参事	鈴木 忠君	企画財政課 参 事	青木 喜栄君
監 査 委 員	湯本 充一君		

---

議会事務局の出席者

議会事務局長 猪瀬 誠 主 査 小林 由実  
主 任 外山 勝也

---

議長（生井和巳君） 引き続きご参集をくださいます、まことにありがとうございます。

ただいまの出席議員数は13名であります。よって、定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

（議長が了承を求めた議事日程は次のとおり）

議 事 日 程 （第2号）

平成23年9月9日（金）午前9時開議

日程第1 認定第1号 平成22年度八千代町歳入歳出決算の認定について

認定第2号 平成22年度八千代町水道事業決算の認定について

（提案理由の説明）

（決算審査結果報告）

（担当課長の決算概要説明）

（質疑、各常任委員会付託）

日程第2 報告第1号 平成22年度八千代町健全化判断比率等の報告について

日程第3 請願上程（常任委員会付託）

日程第4 休会の件

---

日程第1 認定第1号 平成22年度八千代町歳入歳出決算の認定について

認定第2号 平成22年度八千代町水道事業決算の認定について

議長（生井和巳君） 日程第1、認定第1号 平成22年度八千代町歳入歳出決算の認定について、認定第2号 平成22年度八千代町水道事業決算の認定についてを一括議題といたします。

朗読を省略して、提案理由の説明を求めます。

町長。

(町長 大久保 司君登壇)

町長(大久保 司君) ただいま一括上程されました認定第1号 平成22年度八千代町歳入歳出決算の認定について、認定第2号 平成22年度八千代町水道事業決算の認定についての提案理由をご説明申し上げます。

初めに、認定第1号の一般会計からご説明申し上げます。

平成22年度の決算については、平成23年7月5日に、八千代町会計管理者から関係書類の提出があり、地方自治法第233条第2項の規定に基づき、平成23年8月9日、監査委員による決算審査を受けたので、この意見書を付して議会の認定をお願いするものであります。

平成22年度の施策の概要については、別添の行政効果報告書をご覧ください。また、政令で定めるその他の書類については、決算書に折り込んでありますので、ご覧ください。

国においては、昨年6月、平成32年度までを見据えた財政運営戦略を閣議決定し、さらに当面3年間の概算要求及び予算編成の方針である中期財政フレームを策定し、この23年度から3年間で強い経済、強い財政、強い社会保障の一体的実現に向けて始動する第1ステージと位置づけています

このような中、当町においても、国の取り組みと歩調を合わせ、「八千代町第2次行財政集中改革プラン」を基本に一般行政経費の節減合理化を進めるとともに、各種施策についても、限られた財源の中、優先順位の厳しい選択を行い、財源の重点的かつ効率的な配分により、新たな時代の要請に的確に対応できる体制づくりに努めております。

平成22年度においては、住民ニーズにこたえ、しかも地域経済の振興と豊かな地域づくりを進めるため「第四次総合計画」に基づき、町民一人ひとりが幸せを実感できるまちづくりを目指して、各種事務・事業を執行してまいりました。

この方針に基づいて実施した平成22年度の主な事業のうちハード面について申し上げます。

最初に、総務費においては、コミュニティ施設整備事業補助金、交番用地購入事業等、衛生費においては、合併処理浄化槽設置整備事業等、農林業費においては、県営土地改良事業等負担金、いばらきの園芸産地改革支援事業補助金等であります。

次に、土木費においては、町道舗装・排水整備・のりどめ工事・一級町道2号線道路

改良等、教育費においては、西豊田小学校、安静小学校、川西小学校の校舎耐震補強並びに大規模改修工事、東中学校校舎屋上防水補修工事等であります。

また、八千代中央土地区画整理事業、下水道事業、農業集落排水事業、国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険特別会計への繰り出しを行い、生活環境整備や町民の健康維持にも積極的に取り組んでまいりました。

次に、ソフト面においては、「第四次総合計画」に基づき、「対話と協調」・「クリーンな政治」をモットーに、人づくり、集落づくり、まちづくりを施策の核として、町民と行政のパートナーシップ体制に全力を注いでまいりました。

特に、地域住民の主体性・創造性・自発性を促し、「自ら考え自ら行う地域づくり」を推進し、町民総参加のもとに町民の皆様との理解と合意を図りながら、真に住民の生活向上に役立つ実務型の行政施策を優先に、活力あるまちづくりを目指してまいりました。

以上申し上げました事業等の決算であります。歳入では町税24億4,575万1,000円、地方交付税21億4,691万7,000円を初めとする歳入総額84億9,369万8,929円、歳出総額80億6,330万517円となり、歳入歳出差引残額4億3,039万8,412円を平成23年度へ繰り越すことになりました。

以上が平成22年度八千代町一般会計決算の概要であります。

続いて、平成22年度八千代町国民健康保険特別会計決算についてご説明申し上げます。

近年、加速する少子高齢化や疾病構造の変化に伴います医療技術の高度化により、医療費が年々増加の傾向にありましたが、平成22年度におきましては、若干であります、前年度を下回った結果になっております。

長引く景気の低迷による、課税所得の減少や被保険者の減少等の影響を受け、依然として国保の財政運営は大変厳しい状況下にあります。

このため、医療費の適正化や被保険者の健康増進を目指して、特定健康診査・特定保健指導等の健康づくり事業を積極的に推進しながら、適正かつ効率的な事業運営と財政基盤の安定化に努めてまいりました。

以上のことから、歳入額総額は29億1,442万3,838円、歳出額総額は27億1,515万2,442円、歳入歳出差引額1億9,927万1,396円を平成23年度へ繰り越しいたします。

以上が平成22年度八千代町国民健康保険特別会計の決算でございますが、決算につきましては、平成23年8月31日に八千代町国民健康保険運営協議会に諮り、ご了承をいただいていることをご報告申し上げます。

次に、平成22年度八千代町老人保健特別会計決算についてご説明申し上げます。

老人健康保健制度は、平成19年度をもちまして完了いたし、平成20年度から平成22年度までは精算業務を行ってまいりました。平成22年度におきましては、医療費のレセプト再審査及び過誤調整などによる支払基金及び国、県への医療給付費等の精算業務を行い、その業務完了に伴いまして、本特別会計を廃止し、平成23年度に一般会計へ移行しております。

以上のことから、歳入歳出ともに1,892万6,090円、歳入歳出差引額はゼロ円でございます。

以上が平成22年度八千代町老人保健特別会計決算の概要であります。

次に、平成22年度八千代町後期高齢者医療特別会計決算についてご説明申し上げます。

後期高齢者医療制度は、国の制度改正に伴いまして、老人保健制度を引き継ぐ制度で、75歳以上の人及び65歳以上75歳未満の一定の障がいのある人を対象といたします。

この運営主体であります茨城県後期高齢者医療広域連合は、県内すべての市町村が加入しております。

平成22年度は、制度開始2年目を迎え、制度の概要及び趣旨の周知を図るとともに、保険料徴収等の事務を行っております。

また、関係機関との業務連携及び制度財政の基盤安定の確立を図るため、保険基盤安定対策に取り組みをいたしました。

以上のことから、歳入額総額は1億4,498万5,159円、歳出額総額は1億4,049万8,773円、歳入歳出差引額は448万6,386円を平成23年度へ繰り越しいたします。

以上が平成22年度八千代町後期高齢者医療特別会計の決算の概要であります。

次に、平成22年度八千代町介護保険特別会計決算についてご説明申し上げます。

初めに、介護保険事業勘定についてご説明申し上げます。

本年度は、八千代町における65歳以上のトータル人口がおよそ180人と最も少なく、高齢者人口は減少に転じておりますが、しかし要介護認定者は横ばい状況となっておりますが、サービス面の利用量を見ますと、増加傾向にあり、一人ひとりのサービス利用の充実がうかがえます。

それでは、歳入について申し上げますが、保険料につきましては、高齢者人口の減少に伴って、前年度比0.5%減額になっております。その他国庫支出金・支払基金交付金・県支出金・繰入金等が介護給付費の増加により、法定負担割合に応じて増額となっております。

ります。

歳出について申し上げます。初めに、総務費については、支出の削減に努め、前年度比0.3%減額になっております。保険給付費は支出全体の約95.6%を占めており、中でも施設介護サービス費、特定入所者介護サービス費、高額介護サービス費、居宅介護サービス計画給付費等が大きく増加しております。

地域支援事業につきましては、大きな変化はありませんが、生活機能評価の実施者がわずかに減少したため、0.7%の減額になっております。

以上申し上げました保険事業勘定の決算であります。歳入総額は13億6,381万4,647円、歳出総額は13億4,437万7,796円となり、歳入歳出差引残額は1,943万6,851円を平成23年度へ繰り越すことになりました。

続きまして、介護サービス事業勘定について申し上げます。

介護サービス事業勘定予算は、地域包括支援センターが運営している予算であります。介護予防サービス計画件数は、毎月昨年を上回る件数になっており、介護予防計画収入は前年度の5.6%の増加になっております。

なお、今年度保険事業勘定への繰入金は、対前年度比40.9%増額の42万8,000円となっております。

以上申し上げましたサービス事業勘定の決算であります。歳入総額619万5,200円、歳出総額582万1,720円となり、歳入歳出差引残額は37万3,480円を平成23年度へ繰り越させていただきます。

以上が平成22年度八千代町介護保険特別会計の決算の概要であります。

次に、平成22年度八千代中央土地区画整理事業特別会計決算についてご説明申し上げます。

この事業は、平成元年度に事業認可を受けてスタートし、以後5回の事業計画変更の認可を得て、現在施工面積は、第1工区45.6ヘクタール、第2工区20.2ヘクタールの合計65.8ヘクタール、総事業費108億6,700万円の実施計画をもとに事業を推進しております。

施工につきましては、家屋移転や都市計画道路・区画道路の築造工事等を計画的に実施しているところであります。

また、予算につきましては八千代中央土地区画整理事業特別会計として進めており、その財源としては、保留地処分金・国県補助金・一般会計繰入金等を充てております。

本年度財源につきましては、事業収入の保留地処分金・町からの繰入金及び繰越金・町債により施工しました。

以上申し上げました事業の決算であります。歳入総額1億4,494万1,686円、歳出総額1億2,500万1,796円、歳入歳出差引残額1,993万9,890円は、平成23年度へ繰り越すこととなりました。

以上が平成22年度八千代中央土地区画整理事業特別会計決算の概要であります。

次に、平成22年度八千代町農業集落排水事業特別会計決算についてご説明申し上げます。

当町の農業集落排水事業につきましては、平成22年度末現在、12カ所の処理施設が供用開始しており、約1,450戸、5,600人が利用しております。

平成22年度の事業内容を申し上げますと、平成15年度より整備を進めてまいりました川西南部事業ににつきましては、それぞれの施設機能調整工事を実施し、平成22年6月に新井、八町、袋、野爪の各行政区の受益者に対し供用を開始いたしました。

また、一級町道3号線の道路改良工事施工に伴い、今里、川尻地区の管路施設の一部、中継ポンプ施設1カ所の布設がえ及び移設工事を実施いたしました。

以上申し上げました農業集落排水事業特別会計の決算であります。歳入総額2億5,420万3,237円、歳出総額2億4,557万2,283円となり、歳入歳出差引残額863万954円を次年度へ繰り越すことになりました。

以上が平成22年度八千代町農業集落排水事業特別会計決算の概要であります。

次に、平成22年度八千代町下水道事業特別会計決算について申し上げます。

当町の下水道事業は、県が事業主体で進めている鬼怒小貝流域下水道事業の関連公共下水道事業として、平成7年度より八千代中央地区及び東原地区の事業に着手しました。平成12年度は特定環境保全公共下水道事業の認可を得て仁江戸地区の整備に着手し、さらに16年度に若、東落田及び落田地区まで拡大する認可を得て221.8ヘクタールの整備を進めております。

平成22年度は、公共下水道事業において八千代中央地区の管渠布設、マンホール築造工事等約1.82ヘクタールを整備し、認可面積110ヘクタールのうち約84.9ヘクタールが整備済みとなっております。

特定環境保全公共下水道事業につきましては、落田地区の管路布設、マンホール築造工事等約3.38ヘクタールを整備し、認可面積111.8ヘクタールのうち83.89ヘクタールが

整備済みとなっております。

以上申し上げました下水道事業特別会計の決算であります。歳入総額 3 億 7,640 万 6,918 円、歳出総額 3 億 6,627 万 9,170 円となり、歳入歳出差引残額 1,012 万 7,748 円を次年度へ繰り越すことになっております。

以上が平成 22 年度八千代町下水道事業特別会計決算の概要であります。

続きまして、認定第 2 号 平成 22 年度八千代町水道事業決算の提案理由をご説明申し上げます。

平成 22 年度八千代町水道事業決算につきましては、平成 23 年 5 月 31 日、管理者から決算関係書類が提出されましたので、8 月 9 日、地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により監査委員の審査をいただいております。

今回、決算関係書類に監査委員の意見書を付して地方公営企業法第 30 条第 4 項の規定により議会の認定をお願いするものであります。

初めに、3 条予算であります収益的収入及び支出の決算額のうち、収入から申し上げます。

前年度決算額 3 億 9,830 万 9,746 円に対し、4 億 760 万 4,234 円で 2.3% 増になっております。

支出につきましては、前年度決算額 3 億 3,763 万 4,827 円に対し、3 億 3,906 万 3,544 円で 0.4% 増になっております。

決算内容につきましては、損益計算書にありますように、今年度は 6,818 万 7,236 円の黒字になりました。

また、その金額につきましては、当年度未処分利益剰余金となりますので、剰余金処分計算書案のとおり、減債積立金に全額積み立ていたします。

次に、業務の内容であります。当年度新規加入は 48 戸、年度末給水戸数は 5,549 戸で、全体の加入率は 87.2% であり、年度末給水人口は 2 万 1,014 人です。年間有収水量は 140 万 4,016 立方メートルで、前年度対比 2.3% の増になっております。

続いて、4 条予算の資本的収入及び支出の決算額のうち収入はありません。

支出につきましては、前年度決算額 4 億 4,008 万 5,483 円に対し、1 億 6,614 万 1,013 円で 62.2% の大幅減になっております。

支出の主なものとして、配水管布設工事、資産購入による量水器購入費及び 12 件の企業債償還金であります。

支出に対して不足する1億6,614万1,013円は、過年度分損益勘定留保資金として4,436万689円、当年度分損益勘定留保資金1億1,188万8,935円と減債積立金989万1,389円で補填いたしました。

以上、平成22年度八千代町歳入歳出決算及び八千代町水道事業決算の提案理由を申し上げましたが、原案のとおり認定くださいますようお願い申し上げます。

議長（生井和巳君）　ここで、決算及び健全化判断比率等の審査結果について、監査委員、湯本充一さんから報告を求めます。

監査委員、湯本充一さん。

（監査委員　湯本充一君登壇）

監査委員（湯本充一君）　おはようございます。議員の皆さんには大変ご苦労さまでございます。ただいま議長からご指名がありましたので、監査委員を代表いたしましてご報告申し上げます。

去る8月9日、町長の要請を受けまして、関係者の出席を求め、宮本監査委員とともに決算及び健全化判断比率等の審査を実施いたしました。

初めに、平成22年度八千代町歳入歳出決算の審査結果についてご報告申し上げます。

平成22年度一般会計及び国民健康保険特別会計、老人保健特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、農業集落排水事業特別会計、八千代中央土地区画整理事業特別会計、下水道事業特別会計、以上8件の決算並びに基金について、収支は諸規定に適合しており、正当であることを認めました。

次に、公営企業であります水道事業決算の審査結果についてご報告申し上げます。

平成22年度水道事業決算について、関係書類の審査をしたところ、収支は諸規定に適合しており、正当であることを認めました。

次に、健全化判断比率等の審査結果についてご報告申し上げます。

平成22年度健全化判断比率等の審査について算定書類の審査をしたところ、諸規定に適合し正当であり、すべての比率において健全段階にあることを認めました。

なお、意見書につきましては、決算資料に添付させていただいておりますので、ご覧おきいただきたいと思います。

以上をもちまして決算審査の報告を終わります。

議長（生井和巳君）　これより各会計の決算概要について関係課長等より説明を求めま

す。

最初に、一般会計の決算概要について、企画財政課長より説明を求めます。

斉藤企画財政課長。

(企画財政課長 斉藤 実君登壇)

企画財政課長(斉藤 実君) それでは、一般会計の概要について申し上げたいと思います。

平成22年度一般会計決算の概要についてご説明申し上げます。歳入歳出決算書の2ページ並びに3ページをお開きいただきたいと思います。

この表につきましては、平成22年度八千代町会計別の決算表でございます。一般会計ほか8特別会計の決算額が、表の一番下の欄にありますように、歳入総額につきましては137億1,759万5,704円、歳出総額が130億2,493万587円でございます。差引残額につきましては6億9,266万5,117円となっております。

平成21年度決算額と比較いたしますと、歳入総額で1億4,890万1,653円の増、率にいたしまして1.1%の増となっております。また、歳出総額では2億973万4,705円の増、率にいたしまして1.6%の増となっておりますのでございます。差引残額につきましては6,083万3,052円の減、率にいたしまして8.1%の減となっております。

では、平成22年度一般会計決算の概要についてご説明申し上げます。決算書の6ページ、7ページをご覧くださいと思います。平成22年度一般会計歳入歳出決算款別総括表をご覧くださいと思います。7ページの欄外に歳入歳出決算総額が示されておりますが、歳入総額84億9,369万8,929円、歳出総額が80億6,330万517円で、差引残額につきましては4億3,039万8,412円でございます。これにつきましては、翌年度への繰越金となっております。

歳入の詳細につきましては、別冊になってございます行政効果報告書の19ページ、一般会計歳入決算額推移一覧表にもございますように、年度別あるいは前年度との比較、1人当たりの決算額が記載されておりますので、ご覧いただきたいと思います。

歳入決算額につきましては、先ほども申し上げましたように84億9,369万8,929円となっております。前年度と比較いたしまして7億6,071万8,950円の増、率にしまして9.8%の増というようなことでございます。

歳入のうち前年度と比較いたしまして増減の大きなものを申し上げたいと思います。9款地方特例交付金392万円、伸び率にしまして11%の増となっております。

また、10款地方交付税につきましては、2億1,404万8,000円、伸び率にしまして11.1%の増でございます。地域雇用創出推進等によります3年連続の増というようなことになってございます。

次に、14款国庫支出金が1億4,684万4,000円、伸び率にしまして13.8%の増でございます。子ども手当給付金及び国の経済対策臨時交付金並びに小学校3校の耐震補強及び大規模改修等事業によるものでございます。

15款県支出金4,011万6,000円、伸び率にしまして10.5%の増につきましては、国保基盤安定負担金、保育所等児童福祉関係増によるものでございます。

また、21款町債3億3,341万6,000円、伸び率にしまして56.2%、大幅な増でございますが、交付税の振りかえ措置であります臨時財政対策債並びに国庫支出金同様に、小学校の耐震補強及び大規模改修事業等によるものでございます。

一方、前年に対しまして減少した主なものを申し上げます。1款町税4,498万3,000円、1.8%の減でにつきましては、景気の落ち込みによります個人、法人町民税の減少によるものでございます。町税全体で減というようなことになってございます。

8款自動車取得税交付金につきましても691万4,000円、15.6%の減というようなことになってございます。

次に、16款財産収入につきましては897万4,000円、47%の減であります。

また、19款繰越金につきましては、6,490万円、14.6%の減というようなことでございます。

さらに、20款諸収入につきましても2,587万9,000円、11.2%の減というようなことでございますが、この諸収入につきましては21年度に実施いたしました定額給付金によるものでございます。

続きまして、歳出についてご説明を申し上げます。同じく行政効果の20ページをご覧くださいと思います。歳出の目的別決算推移一覧表がございますので、ご覧をいただきたいと思います。

歳出総額につきましては、80億6,330万517円でございます。前年度と比較いたしますと7億1,047万2,313円、9.7%の増というようなことでございます。

その主な内容を申し上げますと、2款総務費につきましては、1億4,635万9,000円、8.6%の減となっておりますけれども、この要因といたしましては、先ほど歳入でも申し上げましたとおり、21年度に実施いたしました定額給付金を総務費のほうで計上いたし

ましたので、減というようなことでございます。

続きまして、3款民生費2億3,676万4,000円、14.1%の増につきましては、主に子ども手当給付金事業及び国民健康保険並びに介護保険特別会計への繰出金、後期高齢者医療給付費負担金等による増でございます。

6款の農林業費の2億1,117万7,000円、31.6%の減につきましては、21年度に行いました国営霞ヶ浦用水事業負担金の一括償還によるものでございます。

9款の消防費につきましては3,466万2,000円、9%の減でございますが、21年度におきまして消防車の更新を2台計上いたしました。本年度はないというようなことで減となっております。

10款の教育費につきましては7億4,339万5,000円、96.1%の大幅な増となっております。この点につきましては、国の経済対策臨時交付金の充当事業でもあります西豊田小学校、安静小学校、川西小学校3校の耐震補強及び大規模改修事業等によるものでございます。

また、12款公債費2億168万9,000円、28.5%の増につきましては、茨城県との共同発行市場公募債の満期一括償還によるものが主なものになってございます。

以上、歳出の概要について説明を申し上げましたけれども、平成22年度の特徴といたしましては、義務的経費につきましては、子ども手当など扶助費の増、それから公募債満期一括償還に伴います公債費の増加にございます。さらに、普通建設事業におきましては、近年財源不足をかんがみまして最低限に抑制をしておりますが、小学校3校の耐震補強及び大規模改修事業並びに国におきます経済対策の一環といたしまして実施されました、地域活性化・公共投資臨時交付金、経済危機対策臨時交付金、きめ細かな交付金などの活用によります生活環境整備を図り、歳出総額では対前年度比約7億円の大幅な増となっているところでございます。

最後に、決算統計からの八千代町の財政指数等が、配付いたしました行政効果報告書の17ページから24ページまでに掲載してございますので、ご覧おきいただきたいと思っております。

以上が一般会計決算の概要でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

議長（生井和巳君） 次に、国民健康保険特別会計、老人保健特別会計、後期高齢者医療特別会計の決算概要について、町民課長より説明を求めます。

小竹町民課長。

(町民課長 小竹貞男君登壇)

町民課長(小竹貞男君) それでは、国民健康保険特別会計決算及び老人保健特別会計決算並びに後期高齢者医療特別会計決算について、概要をご説明を申し上げます。

最初に、国民健康保険特別会計の決算概要から申し上げます。それでは、決算書の154、155ページをご覧くださいと思います。

款1 国民健康保険税の調定額でございますけれども、12億4,823万2,331円に対しまして収入済額9億1,041万8,821円、収納率でございますけれども、72.9%となっております。前年度より1.7%の減でありました。収入未済額でございますけれども、3億1,911万6,180円、前年度よりも257万9,449円の増となっております。また、不納欠損額につきましては、前年度よりも707万6,828円の増でございます、1,869万7,330円となっております

款の2 一部負担金はございません。

次に、款3 使用料及び手数料の収入済額17万4,814円、これは税の督促手数料3,508件分でございます。

款の4 国庫支出金の収入済額は8億5,322万4,574円。内訳としまして、項1 国庫負担金7億235万1,525円、これは療養給付費、また老人医療費拠出金、介護納付金に要する費用の一部を国が負担するものでございます。

項の2 国庫補助金1億5,087万3,049円、これは市町村間における財政力の不均衡を調整する目的でございます。また、財政力安定化への事業取り組みに係るものとして、レセプト点検事業、予防医療対策事業、エイズ対策事業等により交付されるものでございます。

款5 療養給付費等交付金の収入済額6,188万5,680円、これは退職被保険者の医療給付費に応じまして社会保険診療報酬支払基金から交付されるものでございます。

款6 前期高齢者交付金、収入済額1億6,536万312円、これにつきましては前期高齢者の被保険者数の偏在による保険者間の医療及び後期高齢者支援金の負担の不均衡を調整するため、平成20年度から新たに設けられた制度でございます。

款の7 県支出金の収入済額1億5,556万7,604円。内訳としましては、項の1 県負担金1,993万604円、項2 県補助金1億3,563万7,000円でございます。

次に、款8 共同事業交付金の収入済額は3億4,296万7,677円、これは高額な医療費に対する再保険事業としての交付金でございます。

次に、款9財産収入は4万80円でございます。これは基金積立金利子でございます。  
款の10繰入金の収入済額1億2,562万7,000円、これは一般会計等からの繰入金でございます。

次に、款11繰越金2億8,524万3,738円、これは前年度からの繰越金でございます。

款12諸収入、収入済額1,391万3,538円。主なものとしましては、一般被保険者の延滞金、交通事故などの第三者行為の納付金、特定健康診査の負担金等でございます。

歳入合計額は29億1,442万3,838円、前年度と比較しますと2億8,293万3,253円、パーセントで8.8%の減となりました。

次のページをご覧くださいと思います。続きまして、歳出について支出済額をもとにご説明をいたします。

款の1総務費でございますけれども、支出済額1,182万4,149円、これは総務管理費の通信運搬費、また国保連合会への業務委託料が主でございます。

款2保険給付費でございますけれども、支出済額17億3,454万6,424円。主な内訳としましては、項1の療養諸費の一般、退職被保険者の療養給付費等で15億4,910万3,683円、項の2高額療養費1億6,321万5,391円、項4の出産育児諸費1,967万7,350円等でございます。

款3後期高齢者支援金の支出済額3億7,894万6,162円でございます。

款の4前期高齢者納付金が66万5,030円。

款の5老人保健拠出金の支出済額165万3,221円。

次に、款の6介護納付金の支出済額1億9,159万523円。

款7共同事業拠出金の支出済額3億6,669万1,184円、これは高額療養費分としまして国保連合会のほうに拠出するものでございます。

款8保健事業費1,544万9,513円、これは保健事業関係でございまして、特定健康診査の委託料、疾病予防費としまして人間ドックの検診料の助成金等でございます。

款9基金の積立金はございません。

款の10諸支出金1,378万6,236円、これは国保税の過誤納金の還付金、また国庫負担金等の返還金等でございます。

款11予備費につきましては、款の8の保健事業費へ49万1,000円充用してございます。

次ページをお開きいただきたいと思います。歳出合計でございますけれども、27億1,515万2,442円、これは前年と比較しますと減でございまして、1億9,696万911円の減

でございます、パーセントでは6.7%の減という結果でございます。

それでは、186ページをご覧をいただきたいと思います。実質収支に関する調書でございますけれども、歳入の総額29億1,442万3,000円、歳出総額27億1,515万2,000円となりまして、歳入歳出差引額が1億9,927万1,000円、これは23年度へ繰り越しをいたします。翌年度へ繰り越しすべき財源はございませんので、実質収支額も同額となっております。

以上が平成22年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算の概要でございます。

本特別会計につきましては、平成23年8月31日に八千代町国民健康保険運営協議会にお諮りをいたしまして、ご了承をいただいていることをご報告申し上げます。

では、次に老人保健特別会計決算概要につきましてご説明をいたします。この会計につきましては、老人保健法に基づきまして、老人の健康保持と適正な医療給付を図る目的で、昭和58年2月から実施されておりましたが、平成20年4月から後期高齢者医療制度の開始に伴いまして、平成20年3月をもって廃止となりましたけれども、その後平成21年度、22年度にわたりまして精算を行い、終了となるものでございます。

それでは、決算書のほうの190ページ、191ページをご覧をいただきたいと思います。最初に、歳入の収入済額をもとに説明をさせていただきます。

款1 支払基金交付金664円。

款2 国庫支出金34万2,715円。

款3 県支出金8万5,678円。

款4 繰入金はございませんでした。

款5 繰越金1,849万7,033円、これは前年度からの繰越金でございます。

款の6 諸収入はございませんでした。

以上、合計いたしまして、収入合計額は1,892万6,090円となります。前年度と比較しますと減となりまして、1,205万4,375円、パーセントでは38.9%の減となりました。

次ページのほうをご覧いただきたいと思います。歳出でございますけれども、款の1 医療諸費の支出済額はありません。

款2 諸支出金1,892万6,090円、これは一般会計等への繰出金でございます。

次の款3 予備費は、支出がございませんでした。

歳出合計額は1,892万6,090円となります。

200ページのほうをご覧いただきたいと思います。実質収支に関する調書でございます

けれども、歳入総額1,892万6,000円、歳出総額も同額となりまして、歳入歳出差引額はゼロ円でございます。翌年度へ繰り越すべき財源もございませんので、実質収支額もゼロ円でございます。

したがいまして、老人保健特別会計につきましては、平成22年度決算をもちまして終了となります。

以上が平成22年度老人保健特別会計の歳入歳出決算概要でございます。

次に、後期高齢者医療特別会計決算概要についてご説明をいたします。

高齢者医療につきましては、75歳以上の高齢者について新たな制度でありまして、後期高齢者医療制度として平成20年4月から、茨城県後期高齢者医療広域連合と市町村が事務を分担して進めておるところでございます。

それでは、決算書の204、205ページをご覧くださいと思います。

款の1後期高齢者医療保険料8,942万200円、これは収入全体の61.7%に当たります。徴収率につきましては97.7%でございます。

款2使用料及び手数料2万7,050円、これは督促手数料でございます。

款3繰入金4,545万4,176円、これは事務費繰入金と保険基盤安定繰入金でございます。

款4繰越金533万2,837円、前年度からの繰越金でございます。

款5諸収入475万896円、これは保険料の還付金、保健事業委託金等でございます。

歳入合計額は1億4,498万5,159円となります。前年度と比較しまして若干の増となりまして、159万7,384円、1.1%の増となりました。

それでは、次ページをお開きいただきたいと思います。歳出について申し上げます。

款1総務費320万97円、これは健康診査の業務委託料が主なものでございます。

款2後期高齢者医療広域連合納付金1億3,456万4,176円、これは構成率としては95.8%に当たります。

款の3諸支出金273万4,500円、これは保険料の還付金でございます。

款4予備費につきましては、支出がございません。

支出合計額は1億4,049万8,773円となります。前年度と比較しまして若干の増、244万3,835円、1.8%の増となりました。

それでは、216ページをお開きいただきたいと思います。実質収支に関する調書でございますけれども、歳入総額1億4,498万5,000円、歳出総額1億4,049万9,000円となりまして、差引額が448万6,000円、これは23年度へ繰り越しをいたします。翌年度へ繰り越

しすべき財源はございませんので、実質収支額も448万6,000円でございます。

以上が平成22年度後期高齢者医療特別会計決算の概要でございます。

以上、国民健康保険特別会計、老人保健特別会計、後期高齢者医療特別会計の決算概要を申し上げます。慎重なるご審議のほどよろしく願いをいたします。

議長（生井和巳君） 次に、介護保険特別会計の決算概要について、福祉保健課長より説明を求めます。

生井福祉保健課長。

（福祉保健課長 生井勝巳君登壇）

福祉保健課長（生井勝巳君） それでは、介護保険特別会計の平成22年度歳入歳出決算の概要について申し上げます。

説明に入る前に、被保険者及び認定患者数について申し上げます。介護保険認定者は、平成23年3月31日現在で787人となっております。このうち第1号被保険者が751人、第2号被保険者が36人となっております。利用者につきましては705人ということで、去年から比較しまして25人の増となっております。なお、利用率では約90%になっております。また、第1号被保険者は、平成23年3月31日現在で5,309人となっております。

それでは、保険勘定の歳入についてご説明申し上げます。220、221ページをお開きいただきたいと思えます。

款1の第1号被保険者の保険料収入済額でございますが、1億7,706万4,369円で、収入全体の12.98%に当たります。収納率は97.6%になります。内訳でございますが、特別徴収分が1億6,675万3,191円、普通徴収分が973万2,760円、滞納繰り越し分として57万8,418円であります。不納欠損でございますが、106万4,100円は、228件、60人分でございます。未済額ですが、333万8,619円、これは現年度分が191万284円、過年度分が142万8,335円でございます。

款2の使用料及び手数料の収入済額ですが、5万1,390円で、これは総務手数料と第1号被保険者用の督促手数料代でございます。

款3の国庫支出金の収入済額ですが、3億3,309万6,615円で、収入全体の24.42%に当たります。これは、保険給付費に対する国庫負担分と地域支援事業に対する国庫補助金でございます。

款4支払基金交付金の収入済額でございますが、3億9,537万4,146円で、収入全体の

28.99%に当たります。これは、第2号被保険者の保険料分として、社会保険診療報酬支払基金より交付されるものでございます。

款5の県支出金の収入済額でございますが、2億270万2,458円で、収入全体の14.86%に当たります。これは保険給付費に対する県負担分と、地域支援事業に対する県補助金でございます。

款6の財産収入の収入済額ですが、10万8,751円、これは介護給付費準備基金の利子でございます。

款7繰入金の収入済額ですが、2億3,614万5,000円、これは一般会計からの繰入金及び基金繰入金等ございまして、収入全体の17.3%に当たります。

款8の繰越金の収入済額ですが、1,840万858円で、前年度からの繰越金でございます。

款9の諸収入の収入済額ですが、87万1,060円でございます。これは、第1号被保険者保険料の延滞金及び雑入等でございます。

以上の歳入合計が13億6,381万4,647円でございます。

次に、歳出について申し上げます。222、223ページをお開きいただきたいと思います。

款1の総務費の支出済額でございますが、1,525万7,050円で、支出全体の1.1%に当たります。内訳といたしましては、項1の総務管理費が100万4,375円、2の徴収費が7,906円、項3の介護認定審査会費、これが1,424万4,769円でございます。

款2の保険給付費の支出済額ですが、12億8,477万3,669円で、支出全体の95.6%に当たります。内訳は、項1の介護サービス費が11億3,883万248円、項2の介護予防サービス費、これが5,447万1,666円、項3のその他諸費ですが、これが163万5,615円、項4の高額介護サービス費が2,093万5,432円、項5の高額医療合算介護サービス費371万3,748円、項7の特定入所者介護サービス費ですが、これが6,518万6,960円でございます。おのおのの不用額でございますが、これは見込額を下回ったためでございます。

款4の地域支援事業費の支出済額ですが、3,108万8,287円で、支出全体の2.3%に当たります。不用額の194万4,713円は、介護予防事業の開催数が少なかったためでございます。内訳といたしましては、項1の介護予防事業費が527万3,132円、項2の包括的支援事業・任意事業が2,581万5,155円でございます。

款7の諸支出金でございますが、支出済額が1,325万8,790円で全体の0.99%に当たります。内訳といたしましては、項1の償還金及び還付加算では、第1号被保険者保険料還付金が1,400円、償還金が1,325万7,390円でございます。

款8の予備費ですが、これはございません。

以上、歳出合計が13億4,437万7,796円でございます。

219ページをお開きいただきたいと思います。右下をご覧いただきたいと思いますのですが、歳入決算額が13億6,381万4,647円、歳出決算額が13億4,437万7,796円、差引残額が1,943万6,851円でございます。

以上が平成22年度介護保険特別会計保険事業勘定の歳入歳出決算の概要でございます。

続きまして、介護サービス事業勘定の歳入について申し上げます。254、255ページをお開きいただきたいと思います。

款1のサービス収入でございます。サービス収入の収入済額でございますが、項1の介護予防サービス計画費収入が574万6,480円でございます。

款2の繰越金の収入済額は44万8,720円でございます。

以上の歳入合計が619万5,200円でございます。

続いて、歳出について申し上げます。256、257ページをご覧いただきたいと思います。

款1事業費の支出済額でございますが、537万3,720円です。これは、介護予防サービス計画策定委託料でございます。

款2の諸支出金の支出済額は44万8,000円です。これは、保険事業勘定への繰出金でございます。

以上が歳出の合計で582万1,720円でございます。

253ページをお開きいただきたいと思います。右下をご覧いただきたいと思います。歳入決算額が619万5,200円、歳出決算額が582万1,720円、差引残額が37万3,480円でございます。

以上が平成22年度介護保険特別会計介護サービス事業勘定の歳入歳出決算の概要であります。

以上、よろしく願い申し上げます。

議長（生井和巳君） 次に、八千代中央土地区画整理事業特別会計の決算の概要について、都市建設課長より説明を求めます。

上野都市建設課長。

（都市建設課長 上野真一君登壇）

都市建設課長（上野真一君） 22年度八千代中央土地区画整理事業特別会計の歳入歳出決算の概要についてご説明いたします。

決算書の264ページ、265ページの総括表をお開き願います。265ページの下ほうになりますが、欄外に記載してございます歳入決算額1億4,494万1,686円、歳出決算額1億2,500万1,796円で、差引残額1,993万9,890円でありまして、歳入に対します執行率は86.24%になります。

次に、270ページ、271ページの歳入分の事項別明細書をお開き願います。

1款事業収入の収入済額1,965万3,975円につきましては、一般保留地9画地と付け保留地2画地分の事業収入でございます。

5款繰入金の収入済額5,599万8,000円につきましては、町一般会計からの繰入金でございます。

6款繰越金の収入済額2,478万9,711円につきましては、前年度からの繰越金でございます。

8款町債の収入済額4,450万円につきましては、土地区画整理事業債でございます。以上が歳入の概要でございます。

次に、歳出についてご説明いたします。272ページ、273ページをお開き願います。

1款総務費ですが、支出済額2,713万1,636円で、職員の人件費が主なものでありますが、19節の負担金、補助及び交付金で、入沼上流地区県営かんがい排水事業の負担金としまして、調整池の放流負担金を支出してございます。

2款土地区画整理費ですが、支出済額6,353万7,808円であります。翌年度繰越額の繰越明許費3,669万8,000円につきましては、実施計画変更作成業務、事業計画変更業務、区画道路築造工事、家屋物件移転補償関係でありまして、23年度へ繰り越したものであります。

1項2目の第1工区区画整理事業費では、13節委託料の支出済額265万8,390円の主なものは公共用地管理委託料で、調整池の除草及び植栽の消毒作業委託料でございます。15節工事請負費の支出済額1,100万4,000円の主なものは、都計道築造工事45メートル、区画道路築造工事86メートル及び舗装工事198メートルを実施したものであります。22節の補償、補填及び賠償金の支出済額714万7,835円では、主なものですが、次の274ページ、275ページに記載してありますが、工作物移転補償金であります。

次に、1項3目の第2工区区画整理事業費では、15節工事請負費の支出済額1,937万2,500円の主なものとしましては、区画道路築造工事405メートル分であります。22節の補償、補填及び賠償金では支出済額2,242万9,403円で、主なものは家屋物件移転補償金

の前払い金及び休耕補償12名分であります。

3 款公債費につきましては、起債の長期債元金と利子でございます。

次の276ページをお開き願います。実質収支に関する調書の歳入総額 1 億4,494万1,000円、歳出総額 1 億2,500万2,000円、差引額が1,993万9,000円となりまして、翌年度へ繰り越しとなります繰越明許費繰越額が1,479万8,000円でありますので、実質収支額は514万1,000円でございます。

以上が平成22年度八千代中央土地区画整理事業特別会計の決算概要でございます。よろしくお願いをいたします。

なお、事業等の詳細につきましては、行政効果報告書の195ページから197ページに記載しておりますので、後でご覧おきいただきたいと思います。

議長（生井和巳君） 次に、農業集落排水事業特別会計、下水道事業特別会計並びに水道事業会計の決算概要について、上下水道課長より説明を求めます。

幸田上下水道課長。

（上下水道課長 幸田裕之君登壇）

上下水道課長（幸田裕之君） それでは、農業集落排水事業特別会計、公共下水道事業特別会計、八千代町水道事業の決算概要についてご説明いたします。

最初に、平成22年度農業集落排水事業特別会計の決算概要についてご説明申し上げます。278ページ、279ページの歳入歳出款別総括表をお開きください。右下の欄外に記載してありますが、歳入決算額 2 億5,420万3,237円、歳出決算額 2 億4,557万2,283円、差引残額863万954円であります。歳入に対する執行率は96.60%です。

平成22年度の主な事業内容は、既に供用開始となっている11施設と平成22年6月に供用開始した川西南部地区の処理施設管理業務、川西南部地区処理施設機能調整工事、川尻今里地区管路施設布設がえ工事、川尻地内L=68.5メートルです。西豊田中部地区管路施設布設がえ工事、貝谷地内L=31.5メートルの工事を実施しました。

284、285ページをお開きください。歳入歳出決算事項別明細書の歳入についてご説明申し上げます。

款1 分担金及び負担金、収入済額120万円で、その他地区分担金であります。

款2 使用料及び手数料、収入済額6,221万5,860円で、供用開始している12施設の使用料であります。なお、収入未済額は634万6,620円となっております。

款4 県支出金、収入済額2,488万円で、西豊田中部地区交付金410万円と川西南部地区

交付金2,078万円であります。

款5財産収入、収入済額5,726円で基金利子であります。

款6繰入金、収入済額1億1,300万円で一般会計からの繰入金1億円と、286、287ページをお開きください。基金繰入金からの町債償還準備基金繰入金1,300万円であります。

款7繰越金、収入済額992万4,371円で、前年度繰越金であります。

款8諸収入、収入済額1,457万7,280円で、消費税還付金1,082万3,530円と、農集排管路布設がえ補償費375万3,750円であります。

款9町債、収入済額2,840万円で、農業集落排水事業債の川西南部地区210万円、資本費平準化債で1,490万円、借換債で補償金免除繰上償還借換債1,140万円であります。

以上が歳入の概要であります。

288ページ、289ページをお開きください。歳出についてご説明申し上げます。

款1農業集落排水事業費、予算現額1億1,972万4,000円に対し、支出済額1億1,731万8,927円、不用額240万5,073円であります。予算現額に対する執行率は97.99%となっております。

款1項1目1農業集落排水事業管理費、支出済額9,210万2,974円で、主なものといたしまして、供用を開始している12施設分の維持管理などであります。節11の需用費では、処理施設の光熱水費及び修繕料であります。節12役務費は、処理施設の汚泥引抜料であります。節13委託料は、汚泥処理施設管理業務委託及び処理施設の管理委託料であります。節25積立金は、町債償還準備基金積立金であります。不用額193万3,026円で主に積立金であります。

項2目1農業集落排水事業費、支出済額2,521万5,953円、主なものとして職員2名分の人件費であります。

290ページ、91ページをお開きください。節13委託料は、川西南部地区、川尻今里地区、西豊田中部地区の実施設計委託料であります。節15工事請負費は、処理施設工事請負費で、川西南部地区処理施設機能調整工事、管路補修工事請負費で川尻今里地区と西豊田中部地区管路施設布設がえ工事などあります。

款2項1公債費の支出済額1億2,825万3,356円で、長期債元金が7,810万7,066円、長期債利子が5,014万6,290円あります。不用額は699万5,644円で、主に長期債元金であります。

292ページ、3ページをお開きください。款3予備費については、支出がありません。

294ページをお開きください。実質収支に関する調書ですが、歳入総額2億5,420万3,000円、歳出総額2億4,557万3,000円、歳入歳出差引額が863万円で、翌年度へ繰り越すべき財源はなく、実質収支額863万円であります。

以上が平成22年度農業集落排水事業特別会計の決算概要であります。

続きまして、平成22年度下水道事業特別会計の決算概要についてご説明申し上げます。

296ページ、297ページの歳入歳出款別総括表をお開きください。右下の欄外に記載してありますが、歳入決算額3億7,640万6,918円、歳出決算額3億6,627万9,170円で、差引残額1,012万7,748円であります。歳入に対する執行率は97.31%となっています。

298、299ページをお開きください。繰越明許費の決算ですが、右下の欄外に記載してあります。歳入歳出決算額とも2,108万1,000円で差し引き残額はありません。平成21年度に繰り越しをした鬼怒小貝流域下水道事業への建設負担金であります。

300ページ、301ページをお開きください。事故繰越の決算ですが、右下の欄外に記載してあります。歳入歳出決算額とも2,060万円6,000円で、差し引き残額はありません。平成20年度に繰り越しをした鬼怒小貝流域下水道事業への建設負担金であります。

平成22年度の主な事業内容は、公共下水道事業で市街化区域内の管路工事が591メートル、公共ます6カ所、舗装工事10平米です。特定環境保全公共下水道事業で落田地内の管路工事が860メートル、公共ます1カ所、舗装工事152平米を実施しました。

306、307ページをお開きください。歳入歳出決算事項別明細書の歳入についてご説明申し上げます。

款1分担金及び負担金、収入済額1,111万6,730円で、受益者負担金の現年度分が844万1,680円、滞納繰越分267万5,050円であります。収入未済額は1,233万3,540円となっております。

款2使用料及び手数料、収入済額1,438万1,062円で、使用料1,423万6,762円、手数料14万4,300円であります。

款3国庫支出金、収入済額3,200万円で、公共下水道費補助金、社会資本整備総合交付金であります。

款6繰入金、収入済額1億9,700万円で、一般会計からの繰り入れであります。

款7繰越金、収入済額1,070万9,126円で、前年度繰越金であります。308、309ページをお開きください。うち8万1,000円は繰越明許分、6,000円は事故繰り越し分でありませぬ。

款9町債、収入済額1億1,120万円で、事業費の起債分であります。公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業、鬼怒小貝流域下水道事業建設費などに充当しています。うち2,100万円は繰越明許分、2,060万円は事故繰り越し分であります。

以上が歳入の概要であります。

310ページ、11ページをお開きください。歳出についてご説明申し上げます。

款1下水道事業費、予算現額2億4,967万2,000円に対し、支出済額2億2,353万5,102円、繰越明許費918万円、不用額1,695万6,898円、予算現額に対する執行率は89.53%となっております。

款1項1下水道事業費のうち目1下水道総務費、支出済額5,040万253円で、主なものとして職員6名分の人件費、報償費は受益者負担金一括納付報償金、節19の負担金、補助及び交付金は水道事業管理職給与等負担金などであります。不用額は378万6,747円で、主に職員手当などであります。

312、313ページをお開きください。目2下水道管理費、支出済額3,936万9,239円、節13委託料で流量計及びマンホールポンプ管理委託料、節19負担金、補助及び交付金は鬼怒小貝流域下水道維持管理負担金であります。

目3公共下水道事業費、支出済額7,770万8,610円、主なもので節15工事請負費で管路施設、公共ます、舗装工事などあります。不用額は1,280万1,390円で、委託料、工事請負費、補償、補填及び賠償金であります。

目5流域下水道事業費、支出済額4,705万7,000円、鬼怒小貝流域下水道事業建設負担金で繰越明許分、事故繰り越し分が含まれています。

目6基金費、314、315ページをお開きください。積立金で下水道事業基金積立金900万円あります。

款2公債費、支出済額1億4,274万4,068円で、長期債元金が8,870万9,581円、長期債利子が5,403万4,487円あります。

款3予備費については、消費税が不足のため下水道総務費へ45万7,000円充用しました。

316ページをお開きください。実質収支に関する調書ですが、歳入総額3億7,640万6,000円、歳出総額3億6,627万9,000円、歳入歳出差引額1,012万7,000円で、翌年度へ繰り越すべき財源として、繰越明許費繰越額、鬼怒小貝流域下水道事業建設負担金8万円がありますので、実質収支額は1,004万7,000円となります。

以上が平成22年度下水道事業特別会計の決算の概要であります。

続きまして、平成22年度八千代町水道事業の決算概要についてご説明いたします。4枚目をお開きください。

1 ページの収益的収入及び支出についてご説明いたします。

収入の第1款水道事業収益のうち第1項の営業収益でございますが、予算額3億9,247万8,000円に対し、決算額3億9,761万7,667円で、うち仮受消費税1,840万8,792円が含まれております。予算額に比較し、513万9,667円の増となっております。収入内訳は、水道料金、量水器使用料、加入金などであります。

次に、第2項の営業外収益であります。予算額1,228万7,000円に対し、決算額998万6,567円で、仮受消費税15万2,164円が含まれております。予算額に比較し、230万433円の減となっております。収入内訳は、預金利子、雑収益等であります。

続いて、支出についてご説明いたします。2 ページをお開きください。款1水道事業費用のうち第1項の営業費用でございますが、予算額3億4,140万9,000円に対して決算額3億1,457万5,828円で、うち仮払消費税800万2,802円が含まれております。予算額に比較して2,683万3,172円の不用額となっております。支出の内訳は、県水の受水費、動力費、修繕費、各種委託料、人件費及び負担金などであります。不用額の内容としましては、主に修繕費であります。

次に、第2項の営業外費用であります。予算額2,469万6,000円に対し、決算額2,448万7,716円です。予算額に比較して20万8,284円の不用額となっております。支出の内訳は、企業債利息、雑支出、確定消費税です。

第3項の予備費から第1項の営業費用へ20万8,000円の流用による支出がありました。

次に、3 ページの資本的収入及び支出についてご説明いたします。収入の第1款資本的収入等はありませんので、表の添付はしてございません。

次に、支出についてご説明いたします。第1款の資本的支出のうち第1項の建設改良費であります。予算額743万8,000円に対し、決算額742万246円で、うち仮払消費税35万3,345円が含まれております。予算額に比較して1万7,754円の不用額となっております。支出内訳は、施設費の配水管布設工事、また資産購入費では量水器購入費であります。

次に、第2項の企業債償還金であります。予算額1億5,872万6,000円に対し、決算額1億5,872万767円であります。予算額に比較して5,233円の不用額となっております。これは12件分の企業債償還元金であります。

資本的収入が資本的支出に対して不足する1億6,614万1,013円は、過年度分損益勘定

留保資金4,436万689円及び当年度分損益勘定留保資金1億1,188万8,935円、減債積立金989万1,389円から補填いたしました。

続いて、4ページの平成22年度八千代町水道事業損益計算書についてご説明いたします。ただし、この計算書は消費税を含まないで計算しています。

1の営業収益が3億7,920万8,875円で、2の営業費用が3億657万3,026円であります。これを差し引きいたしますと、7,263万5,849円の営業黒字となります。

次に、3の営業外収益は983万4,403円で、4の営業外費用は1,428万3,016円で、差し引き444万8,613円の赤字となります。

これを営業利益と差し引きますと、経常利益は6,818万7,236円の黒字となります。また、当年度純利益も同額で、7ページのとおり減債積立金に積み立てる予定であります。

以上で平成22年度水道事業の決算概要についての説明を終わります。

農業集落事業特別会計、公共下水道事業特別会計、八千代町水道事業の3事業の決算の概要を終わります。よろしく願いいたします。

議長（生井和巳君） 以上で関係課長の説明を終わります。

暫時休憩します。

（午前10時34分）

---

議長（生井和巳君） 休憩前に戻り会議を再開いたします。

（午前10時47分）

---

議長（生井和巳君） これから質疑を行います。

なお、本案は関係する各常任委員会に付託する予定でありますので、質疑は要点のみ簡潔にお願いいたします。

質疑ありませんか。

2番、大久保弘子議員。

2番（大久保弘子君） ページ146のところですが、款11の項4の目1ですか、そのほかの公共施設災害復旧費というところで、災害復旧費のことなのですが、この間の3.11の大地震の際に、新庁舎が壁の亀裂とかかなり、天井のライトが落ちてしまったりとかいろいろありました。それについての補修費は、どこに記載されて、幾らかかったのかお聞きいたします。

それと、266ページのところですが、区画整理事業費のところですが、一般会計からの繰入金と町債、町の借金だと思っておりますが、これが1億円近いお金がかかっております。毎年一般会計からの繰り入れと借金で、国、県の補助金はもう切られていますので、これに対しての進捗状況をお聞きいたします。

それと、302ページの下水道事業なのですけれども、同じくやはり一般会計からの繰り入れが2億円近いお金、それと町債が決算で1億1,200万円ですか、大きなお金が一般会計からと借金で事業が進められております。やはりこれも、その進捗状況についてお尋ねいたします。

議長（生井和巳君） 企画財政課長。

（企画財政課長 斉藤 実君登壇）

企画財政課長（斉藤 実君） 2番、大久保弘子議員のご質問にお答え申し上げます。

私への質問につきましては、先ほど第1番目にございました、その他の公共施設災害復旧費というようなことで、146ページ、7ページでございますけれども、この復旧費につきましては、予算のほうで982万1,000円計上させていただきました。そのうち支出につきましては56万7,000円ということで少額でございますが、翌年度への繰り越しの中に893万円というふうなことで計上してきております。その中に庁舎の補修費も入っているということで、この内訳としましては、総合体育館の舞台の上のタイル、さらには川西公園の液状化に対します補修、それから給食センターの西側にブロック塀がございますが、それらの修理と役場庁舎の修理というようなことで、役場の庁舎につきましては約340万円ほど計上させていただいて、繰越明許ということで、23年度に工事のほうを、修繕のほうを施工したというようなことでございます。

以上でございます。

議長（生井和巳君） 都市建設課長。

（都市建設課長 上野真一君登壇）

都市建設課長（上野真一君） 2番、大久保弘子議員のご質問で、土地区画整理事業の繰入金5,599万8,000円並びに町債の4,450万円につきまして、補助金が来ていないのにどのくらい進捗しているかということでございますが、22年度事業、ただいまの現在でございますが、第1工区におきまして事業費ベースによりまして98.82%、第2工区では35.77%の進捗でございます。合わせますと81.02%の進捗でございます。よろしく願いいたします。

議長（生井和巳君） 上下水道課長。

（上下水道課長 幸田裕之君登壇）

上下水道課長（幸田裕之君） 2番大久保弘子議員の質問ですが、繰入金1億9,700万円、町債1億1,200万円ということで、進捗率のほうなのですけれども、公共下水道事業につきましては平成8年度から工事に着手して、特定環境保全公共下水道事業につきましては平成13年度から工事に着手しております。認可面積が公共地区と特定環境保全地区を合わせまして221.8ヘクタールで、整備面積が168.79ヘクタールということで、進捗率が76.1%になっております。また、供用開始面積は143.05ヘクタールで進捗率は64.50%になっております。

以上です。

議長（生井和巳君） あと質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

議長（生井和巳君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっております認定第1号 平成22年度八千代町歳入歳出決算の認定について、認定第2号 平成22年度八千代町水道事業決算の認定については、お手元に配付の付託事項明細書のとおり各常任委員会に分割して付託したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（生井和巳君） 異議なしと認めます。

よって、認定第1号 平成22年度八千代町歳入歳出決算の認定について、認定第2号 平成22年度八千代町水道事業決算の認定については、付託事項明細書のとおり各常任委員会に分割して付託することに決定いたしました。

---

日程第2 報告第1号 平成22年度八千代町健全化判断比率等の報告について

議長（生井和巳君） 日程第2、報告第1号 平成22年度八千代町健全化判断比率等の報告書について提出されておりますので、ご覧おきます。

---

日程第3 請願上程（常任委員会付託）

議長（生井和巳君） 日程第3、本日までに受理した請願は、お手元に配付いたしました請願・陳情文書表のとおり、所管の常任委員会に付託いたしましたので、ご報告いた

します。

---

日程第4 休会の件

議長（生井和巳君） 日程第4、休会の件を議題といたします。

お諮りいたします。議事の都合により、あす10日より13日までは休会にしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（生井和巳君） 異議なしと認めます。

よって、あす10日より13日までは休会とすることに決定いたしました。

---

議長（生井和巳君） 以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

次会は、14日午前9時より本会議を開きます。

本日はこれにて散会します。

（午前10時55分）